

練馬における農業ビジネス

～練馬の農業の歴史とこれから～

練馬区生産者

渡戸秀行

2019年11月30日

渡戸 秀行

Mr. Hideyuki Watado

- ▶ 1966年生まれ
- ▶ 1.3haの農地を耕作
- ▶ 旬の野菜を年間30種類栽培
- ▶ 江戸東京野菜を10種類栽培
- ▶ 畑の販売所で野菜を販売
- ▶ 趣味：ギター





都市農業のはじまり

都市化

～昭和時代～

- ▶ 都市計画法 公布（1968年）
- ▶ 東京都人口 1,125万人（1968年）
- ▶ 農地と都市が混在していた
- ▶ 昭和50年の練馬区農地面積 746ha

～平成時代～

- ▶ 都市農業振興基本法 公布（2015年）
- ▶ 東京都人口 1,394万人（2015年）
- ▶ 都市化が進み、高層ビルが立ち並ぶ
- ▶ 平成28年の練馬区農地面積 216ha



練馬区の農地





練馬の農業。何を作ってる？

農業産出額

<特別区>

▶ 野菜：31.3億円

▶ 果実：2.9億円

▶ 花き：2.8億円

<東京都>

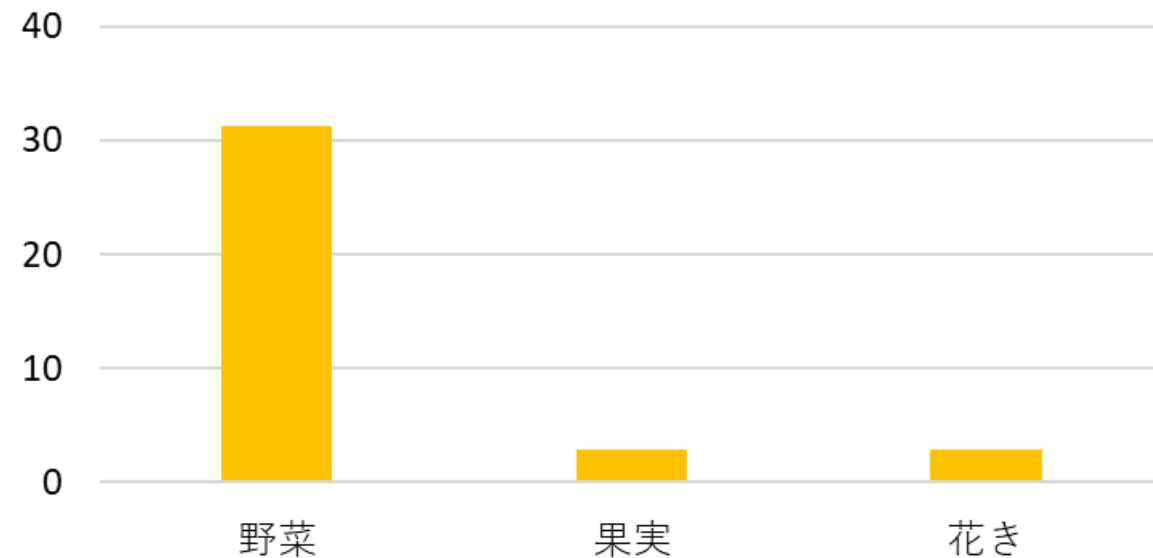
▶ 野菜：161億円

▶ 果実：32億円

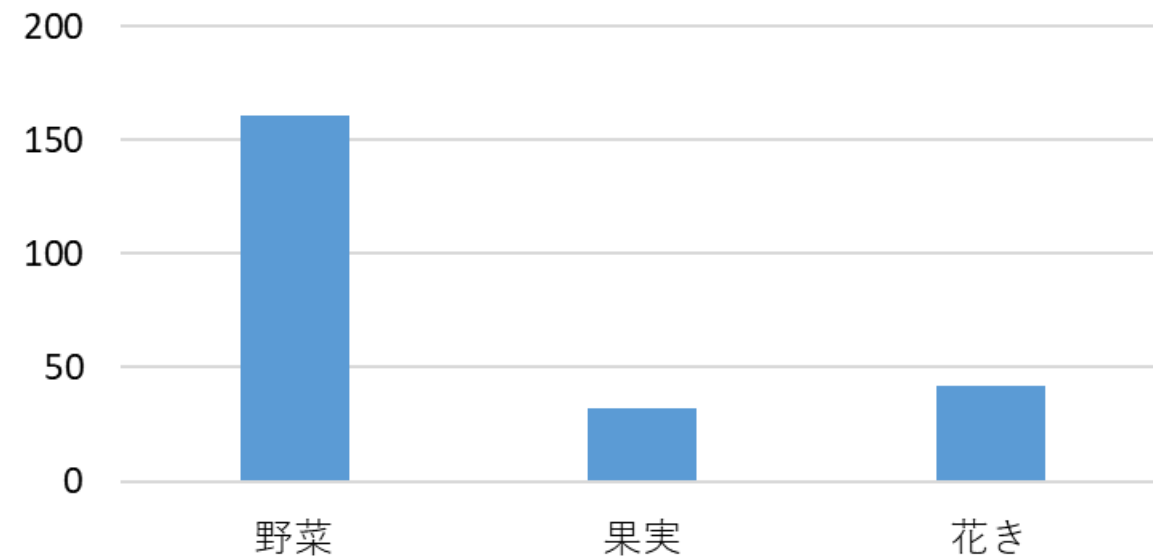
▶ 花き：42億円

※農林水産省 平成29年市町村別農業産出額（推計）のデータを使用

特別区の農業産出額（億円）



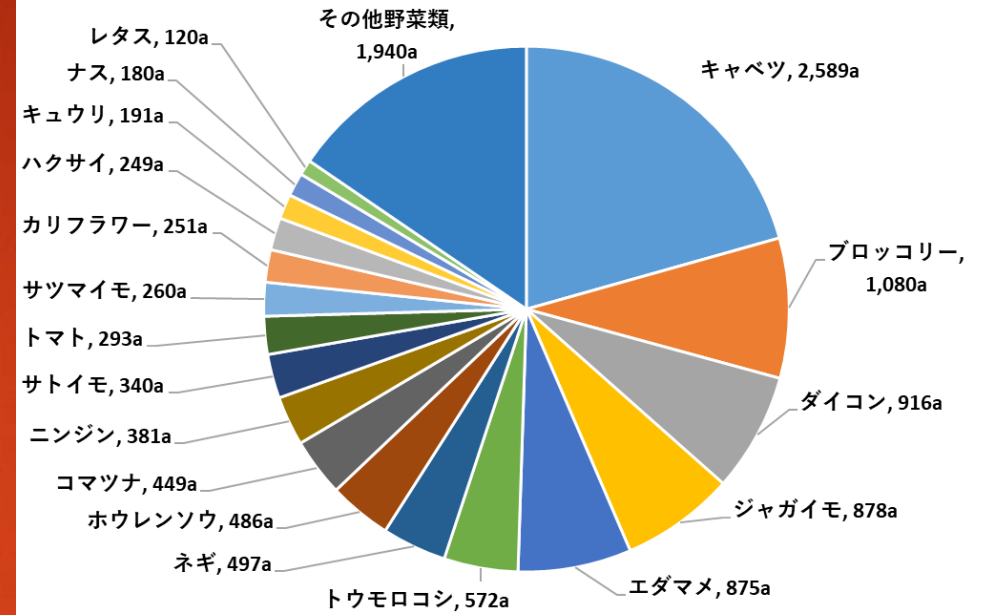
東京都の農業産出額（億円）



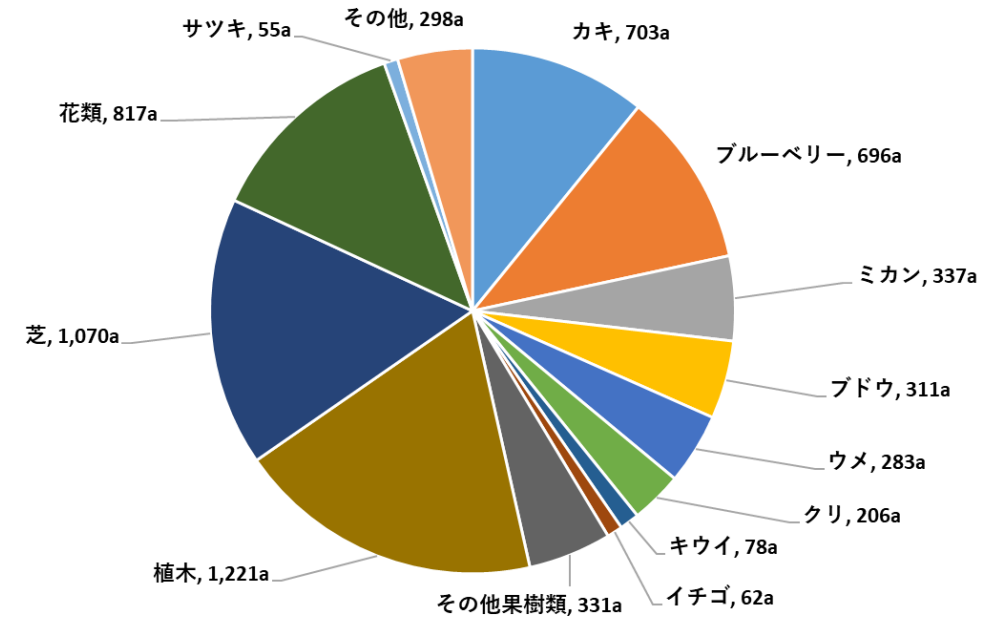
練馬区の農産物



練馬区 野菜の作付面積



練馬区 果樹・その他の作付面積



多様な農産物の販売形態

卸売市場

全国から集まった青果物（野菜、果物）、水産物、肉、花を取引し、小売店（八百屋、スーパーなど）、外食事業者（レストランなど）、加工業者へ販売する拠点。

<メリット>

- ▶ 生産した品目を大量に出荷できる

<デメリット>

- ▶ 産地間競争による価格競争を強いられる

卸売市場のしくみ



庭先販売型直売所

農業者の農場や自宅の庭先の青果物の販売所。小屋や自動販売機で販売。

<メリット>

- ▶ 輸送費などの出荷コストがかからない

<デメリット>

- ▶ 多品目栽培になり、農作業の農閑期がない



JA直売所

農業協同組合（JA）が開設している直売所。様々な農業者が農産物を持ち込み、JAが農産物を販売する。委託販売方式を採用する直売所が多く、売れ残った農産物は、農業者が回収し、いつも新鮮な農産物が並ぶ。

<メリット>

- ▶ 庭先で販売するよりも集客力があり、効率的である

<デメリット>

- ▶ 季節により出荷品目が集中し価格競争を強いられる



レストラン・飲食店

レストラン・飲食店に、直接、農業者が農産物を販売。シェフは、獲れたての新鮮な農産物を使って料理をすることができる。

<メリット>

- ▶ 飲食店は、地元産食材を使用していることでPRになる

<デメリット>

- ▶ 多品目を栽培することになり、農作業の農閑期がない



消費者にとってのメリット

都市農業には、多様な販売形態がある



鮮度・価格・味・こだわり・買い方
比較して購入できる

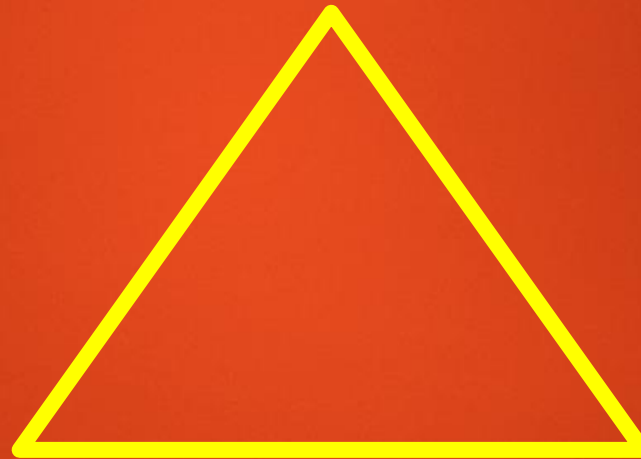
これからの練馬の都市農業はようになる？

都市農業の価値とは？

- 農業が本来持っている力とは？
- 農業に可能性はあるのか？
- 農業の魅力を発信できるか？
- 農業でコミュニティを築けるか？
- 災害の時に農地を何ができる？

都市農業の未来を語ろう

農地を核とした
農業ビジネスの展開



販売チャネルと
消費者選択の自由

加工による新たな
付加価値の創造



Thank you for your attention.

Terima kasih atas perhatian Anda

경청 해주셔서 감사합니다

ご清聴ありがとうございました。